

＜新木場＞気になるスポット 株式会社タカサゴ

月報委員 岩本眞吾

6月19日、ちょうど1年ほど前に新木場1丁目に越してこられた株式会社タカサゴさんを深谷月報委員長と事務局の松崎さんを伴い3名で訪問いたしました。

以前はホテルオークラさんの食品工場があったところです。

応対していただいたのは、親会社にあたる株式会社ウォーターホールディングスの中山資産管理室室長と、タカサゴの荻沼取締役副社長、宮下管理部総務担当マネージャーの3名。

営業品目は、1.貯水槽清掃・点検、2.各種排水槽清掃・点検、3.排水管高压洗浄、4.ポンプ交換・配管工事ほか。

歴史は古く創業大正15年5月。当時浄化槽はまだ無く、肥を肥料として農家へ届ける商いからスタート。新木場に移転する前までは、肥を入れていた木製の桶が残してあったそうです。その後1964年の東京オリンピック頃より下水処理場の建設が進み、汲み取り式や浄化槽から徐々に下水道が普及したこと。しかしながらこの当時の東京23区の下水道普及率30%で、まだまだ浄化槽の利用が多かったことから、浄化槽関連の仕事は欠かせなかったそうです。

時代は流れ今日、大型ビルやマンションの地下には下水道管より低い位置にある厨房やトイレの排水をいったん貯めておくビルピットと呼ばれる排水槽があるそうです。法令では年2回と規定されていますが、東京都では、年3回の清掃を指導しており、下水道まで送り届ける排水ポンプの清掃点検や槽内の清掃などが売り上げの柱とのこと。

作業の現場では、厨房の排水に含まれる生ゴミや脂分が下水道に直接流れ込まないように、グリストラップが設置されています。特に中華料理店の排水は油分が多く、冷えて固まると排水管を詰まらせることがあるので、高压洗浄車を用いた定期的な清掃をするそうです。そんな特殊用途の高压洗浄車も常



左から中山資産管理室室長、宮下マネージャー、荻沼副社長



木製の桶



グリストラップ清掃中



グリストラップ清掃後

駐していて頼もしいです。

作業を行う上で一番気を付けているのは排水槽内に降りる際の酸素欠乏や硫化水素。温泉地へ行くと硫黄のにおいが漂っていたりしますが、高濃度になると嗅覚麻痺により臭いを感じなくなるそうで、高濃度の場合、一息吸っただけで呼吸麻痺により気を失い、鉄製の梯子から落下しお亡くなりになるケースがあるそうです。そのための酸素欠乏・硫化水素などを調べる測定器は欠かせません。

新木場移転の経緯は、旧目白の本社では駐車場が数か所に点在せざるを得ないなど手狭であったため。数年かけてやっと条件のそろった場所が嬉しいことに新木場とのこと。木の街を意識し、事務所は木造。造作も木材をふんだんに使用されぬくもりを感じます。また、許認可(一般廃棄物収集運搬業)の関係で都内が前提だそうです。

そのほか、排水槽で貯まる汚泥は、処理工程を経て軽量骨材・セメント原料・肥料などの材料に再資源化。コロナ禍ではトイレに不織布マスクを流す人が多く、排水ポンプの詰まりが続発。動物と一緒に宿泊できるホテルでは、そのトイレにペット用シートを流す外国の方が多い(つまりペットを連れて日本にやってくる外国人旅行者がかなりいる!?)など、興味深いお話を伺いました。また現在、官公庁では、宮内庁・衆議院・国立印刷局・東京消防庁など、民間では、サンシャインシティ・東京ビックサイト・日本橋三越本店・羽田空港・明治神宮球場・八重洲ミッドタウンなどで各種排水槽、貯水槽などの清掃点検を請け負っていらっしゃること。因みにご近所では新木場センタービルでも同様の業務を請け負っているそうです。

汚水槽などの清掃作業は、お店の開店前や閉店後、人の活動が無い夜間・休日など、お客様の営業時間をさけて作業を行うことが多く、日中の本社内には特殊車両が意外と停まっていました。

組合員の中には「こんな会社待っていました!」と思う方もいらっしゃるでしょう。万が一に備え、ぜ



槽内清掃中

ひ頭の片隅に置いてください。タカサゴさんが身
近にあり心強い限りです。

株式会社タカサゴ
江東区新木場1丁目11番5号
TEL 03(6457)0727



特殊車両がずらり



木造にこだわった事務所